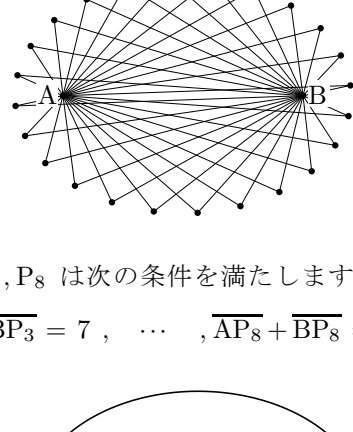
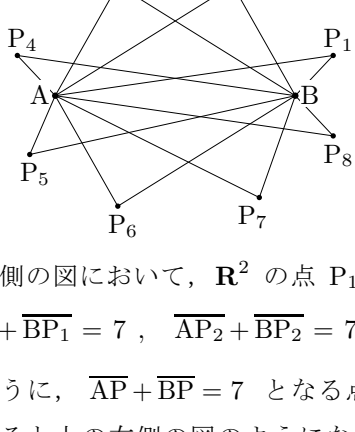


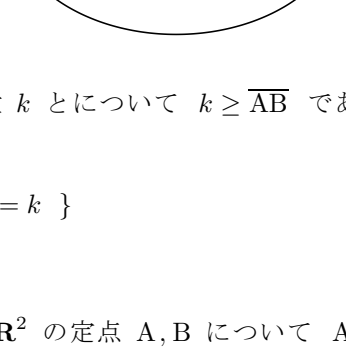
§5.4 楕円

座標平面 \mathbf{R}^2 において2点 A と B とを定めます. 仮に $\overline{AB} = 5$ とします.



上の左側の図において, \mathbf{R}^2 の点 $P_1, P_2, P_3, \dots, P_8$ は次の条件を満たします:
 $\overline{AP_1} + \overline{BP_1} = 7, \overline{AP_2} + \overline{BP_2} = 7, \overline{AP_3} + \overline{BP_3} = 7, \dots, \overline{AP_8} + \overline{BP_8} = 7$.

このように, $\overline{AP} + \overline{BP} = 7$ となる点 P を
 沢山とると上の右側の図のようになります.
 更に $\overline{AP} + \overline{BP} = 7$ となる点を総て集めると
 右図のような曲線になります. このよう
 な曲線を楕円 (ellipse) といい, 定点 A と B
 とを焦点 (focus) といいます.



定義 座標平面 \mathbf{R}^2 において, 定点 A, B と定数 k について $k \geq \overline{AB}$ であるとき,
 $\overline{AP} + \overline{BP} = k$ である点 P の全体

$$\{ P \in \mathbf{R}^2 \mid \overline{AP} + \overline{BP} = k \}$$

を楕円といい, 点 A と B とを焦点という.

定数 k について $k \geq 0$ とします. 座標平面 \mathbf{R}^2 の定点 A, B について $A = B$ のとき, \mathbf{R}^2 の点 P について,

$$\overline{AP} + \overline{BP} = k \iff \overline{AP} + \overline{AP} = k \iff 2\overline{AP} = k \iff \overline{AP} = \frac{k}{2}.$$

従って, 点 A と B とを焦点とする楕円は

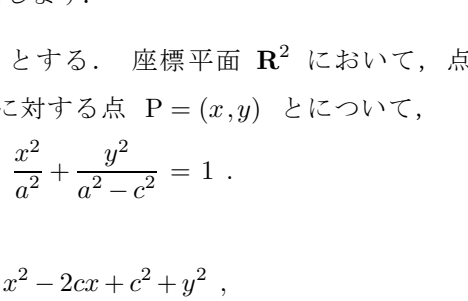
$$\{ P \in \mathbf{R}^2 \mid \overline{AP} + \overline{BP} = k \} = \left\{ P \in \mathbf{R}^2 \mid \overline{AP} = \frac{k}{2} \right\}.$$

この点集合は A を中心とする円です. つまり, 楕円の2個の焦点が重なるとき, その楕円は円になります.

座標平面 \mathbf{R}^2 の点 A, B について $A \neq B$ とし, 定数 k について $k > \overline{AB}$ とします.

$$E = \{ P \in \mathbf{R}^2 \mid \overline{AP} + \overline{BP} = k \}$$

を考えます. 線分 AB の中点を楕円 E の中心といいます. 証明は省きますが, 直線 AB と楕円 E とには異なる2個の共有点があります. それら2個の共有点を結ぶ線分を楕円 E の長軸といいます.



長軸の長さは k です. 更に, 証明は省きますが, 線分 AB の垂直二等分線と楕円 E とには異なる2個の共有点があります. それら2個の共有点を結ぶ線分を楕円 E の短軸といいます. 楕円 E とその長軸あるいは短軸との共有点を E の頂点といいます. 証明は省きますが, 楕円はその長軸を含む直線に関して対称であり, その短軸を含む直線に対しても対称です.

座標平面において楕円を表す方程式を導出します.

補助定理 実数 a, c について $a > c \geq 0$ とする. 座標平面 \mathbf{R}^2 において, 点 $F_1 = (c, 0)$ と $F_2 = (-c, 0)$ と各実数 x, y に対する点 $P = (x, y)$ について,

$$\overline{F_1P} + \overline{F_2P} = 2a \iff \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{a^2 - c^2} = 1.$$

証明 $P = (x, y)$ について,

$$\overline{F_1P}^2 = (x-c)^2 + y^2 = x^2 - 2cx + c^2 + y^2,$$

$$\overline{F_2P}^2 = (x+c)^2 + y^2 = x^2 + 2cx + c^2 + y^2.$$

$\overline{F_1P} + \overline{F_2P} = 2a$ とすると, $\overline{F_2P} = 2a - \overline{F_1P}$ なので

$$\overline{F_2P}^2 = (2a - \overline{F_1P})^2 = 4a^2 - 4a\overline{F_1P} + \overline{F_1P}^2,$$

$$x^2 + 2cx + c^2 + y^2 = 4a^2 - 4a\overline{F_1P} + x^2 - 2cx + c^2 + y^2,$$

$$4a\overline{F_1P} = 4a^2 - 4cx,$$

$$\overline{F_1P} = a - \frac{c}{a}x,$$

$$\overline{F_1P}^2 = \left(a - \frac{c}{a}x\right)^2,$$

$$x^2 - 2cx + c^2 + y^2 = a^2 - 2cx + \frac{c^2}{a^2}x^2,$$

$$\frac{a^2 - c^2}{a^2}x^2 + y^2 = a^2 - c^2,$$

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{a^2 - c^2} = 1.$$

故に, $\overline{F_1P} + \overline{F_2P} = 2a$ ならば $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{a^2 - c^2} = 1$. 証明は後で述べるが, 逆に,

$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{a^2 - c^2} = 1$ ならば $\overline{F_1P} + \overline{F_2P} = 2a$. (証明終り)

定理 5.4.1 0 でない定数 a, b について, xy 座標平面における楕円 E の頂点が $(a, 0)$ と $(-a, 0)$ と $(0, b)$ と $(0, -b)$ とであるとき, E は方程式 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ で表される.

証明 定数 a, b について $a \geq b > 0$ のときを扱う.

xy 座標平面における楕円 E について, 点

$A_1 = (a, 0)$ と $A_2 = (-a, 0)$ と $B_1 = (0, b)$

と $B_2 = (0, -b)$ とが頂点であるとする. E の

中心は原点 $O = (0, 0)$ である. $a > b$ なの

で, E の長軸は, 線分 A_1A_2 であり, x 軸に

含まれる. よって, ある正の定数 c をとると,

E の焦点は $F_1 = (c, 0)$ と $F_2 = (-c, 0)$ とで

ある.

$$\overline{F_1A_1} = a - c, \quad \overline{F_2A_1} = a - (-c) = a + c,$$

これより,

$$\overline{F_1B_1} + \overline{F_2B_1} = \overline{F_1A_1} + \overline{F_2A_1} = a - c + a + c = 2a.$$

$\overline{F_1B_1} = \overline{F_2B_1}$ なので, $\overline{F_1B_1} = \overline{F_2B_1} = a$. また, $\overline{OF_1} = c, \overline{OB_1} = b$. ピタゴラスの定理より $\overline{OF_1}^2 + \overline{OB_1}^2 = \overline{F_1B_1}^2$ なので, $c^2 + b^2 = a^2, a^2 - c^2 = b^2$. 楕円 E の焦点は $F_1 = (c, 0)$ と $F_2 = (-c, 0)$ となので, 補助定理より, 各実数 x, y に対する点 $P = (x, y)$ について

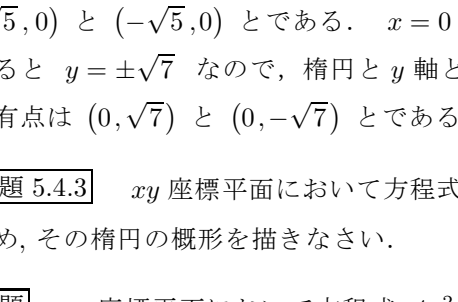
$$P \in E \iff \overline{F_1P} + \overline{F_2P} = 2a \iff \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{a^2 - c^2} = 1 \iff \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1.$$

楕円 E は方程式 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ で表される. (証明終り)

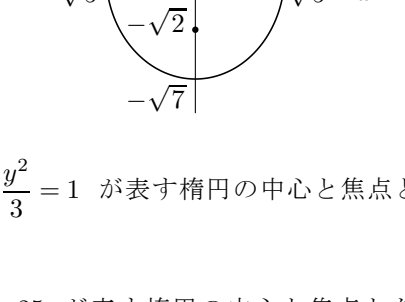
0 でない定数 a, b に対して, xy 座標平面において楕円を表す方程式 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ を標準形といいます. 次の定理の証明は後にします.

定理 5.4.2 正の定数 a, b に対して, xy 座標平面において方程式 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ が表す図形 E は楕円であり, E の中心は原点 $(0, 0)$ であり, E の頂点は $(a, 0)$ と $(-a, 0)$ と $(0, b)$ と $(0, -b)$ とである;

- (1) $a > b$ のとき, $a^2 = b^2 + c^2$ である定数 c に対して, E の焦点は $(c, 0)$ と $(-c, 0)$ とである;
- (2) $a = b$ のとき, E は原点 $(0, 0)$ を中心とする半径 a の円である;
- (3) $a < b$ のとき, $b^2 = a^2 + c^2$ である定数 c に対して, E の焦点は $(0, c)$ と $(0, -c)$ とである.



楕円 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > b > 0$)



楕円 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($b > a > 0$)

【例題】 xy 座標平面における楕円 E について, 焦点が $(3, 0)$ と $(-3, 0)$ とであり長軸の長さが 10 であるとする. E を表す方程式を求めよ.

楕円 E について, 中心は原点 $(0, 0)$ である. 両方の焦点が x 軸に属するので, 長軸は x 軸に含まれる. 長軸の長さが 10 なので, x 軸に属する頂点は $(5, 0)$ と $(-5, 0)$ とである. ある実数 b をとると, y 軸に属する頂点は $(0, b)$ と $(0, -b)$ とである. $3^2 + b^2 = 5^2$ なので $b^2 = 16$. 楕円 E は方程式 $\frac{x^2}{25} + \frac{y^2}{16} = 1$ で表される. [終]

【例題】 xy 座標平面における楕円 E について, 焦点が $(0, 4)$ と $(0, -4)$ とであり短軸の長さが 6 であるとする. E を表す方程式を求めよ.

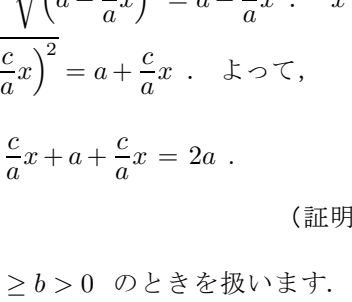
楕円 E について, 中心は原点 $(0, 0)$ である. 両方の焦点が y 軸に属するので, 長軸は y 軸に含まれ, 短軸は x 軸に含まれる. 短軸の長さが 6 なので, x 軸に属する頂点は $(3, 0)$ と $(-3, 0)$ とである. ある実数 a をとると, y 軸に属する頂点は $(0, a)$ と $(0, -a)$ とである. $a^2 = 3^2 + 4^2 = 25$. 楕円 E は方程式 $\frac{x^2}{9} + \frac{y^2}{25} = 1$ で表される. [終]

【問題 5.4.1】 xy 座標平面における楕円 E について, 焦点は $(0, 5)$ と $(0, 5)$ とであり長軸の長さが 18 であるとする. E を表す方程式を求めなさい.

【問題 5.4.2】 xy 座標平面における楕円 E について, 焦点は $(3, 0)$ と $(-3, 0)$ とであり短軸の長さが 14 であるとする. E を表す方程式を求めなさい.

【例題】 xy 座標平面において方程式 $\frac{x^2}{5} + \frac{y^2}{7} = 1$ が表す楕円の中心と焦点とを求め, その楕円の概形を描く.

方程式 $\frac{x^2}{5} + \frac{y^2}{7} = 1$ が表す楕円の中心は原点 $(0, 0)$ であり, 焦点は $(0, \sqrt{2})$ と $(0, -\sqrt{2})$ とである. $y = 0$ とすると $x = \pm\sqrt{5}$ なので, 楕円と x 軸との共有点は $(\sqrt{5}, 0)$ と $(-\sqrt{5}, 0)$ とである. $x = 0$ とすると $y = \pm\sqrt{7}$ なので, 楕円と y 軸との共有点は $(0, \sqrt{7})$ と $(0, -\sqrt{7})$ とである. [終]



【問題 5.4.3】 xy 座標平面において方程式 $\frac{x^2}{8} + \frac{y^2}{3} = 1$ が表す楕円の中心と焦点とを求め, その楕円の概形を描きなさい.

【例題】 xy 座標平面において方程式 $4x^2 + 9y^2 = 25$ が表す楕円の中心と焦点とを求め, その楕円の概形を描く.

方程式 $4x^2 + 9y^2 = 25$ を変形すると,

$$\frac{4x^2}{25} + \frac{9y^2}{25} = 1, \text{ つまり}$$

$$\frac{x^2}{\left(\frac{5}{2}\right)^2} + \frac{y^2}{\left(\frac{5}{3}\right)^2} = 1.$$

この方程式が表す楕円の中心は原点 $(0, 0)$ であり, 焦点は $\left(\frac{5}{6}\sqrt{5}, 0\right)$ と $\left(-\frac{5}{6}\sqrt{5}, 0\right)$ とである. $y = 0$ とすると $x = \pm\frac{5}{2}$ なので, 楕円と x 軸との共有点は $\left(\frac{5}{2}, 0\right)$ と $\left(-\frac{5}{2}, 0\right)$ とである. $x = 0$ とすると $y = \pm\frac{5}{3}$ なので, 楕円と y 軸との共有点は $\left(0, \frac{5}{3}\right)$ と $\left(0, -\frac{5}{3}\right)$ とである. [終]

【問題 5.4.4】 xy 座標平面において方程式 $25x^2 + 16y^2 = 36$ が表す楕円の中心と焦点とを求め, その楕円の概形を描きなさい.

——— 定理の証明

補助定理の証明において後回しにしたことを証明します. 実数 a, c について $a > c \geq 0$ とします. 座標平面 \mathbf{R}^2 において, 点 $F_1 = (c, 0)$ と $F_2 = (-c, 0)$ とを考えます. 次のことを証明します: 各実数 x, y に対する点 $P = (x, y)$ について,

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{a^2 - c^2} = 1 \text{ ならば } \overline{F_1P} + \overline{F_2P} = 2a.$$

証明 $P = (x, y)$ について,

$$\overline{F_1P}^2 = (x-c)^2 + y^2 = x^2 - 2cx + c^2 + y^2,$$

$$\overline{F_2P}^2 = (x+c)^2 + y^2 = x^2 + 2cx + c^2 + y^2.$$

$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{a^2 - c^2} = 1$ とする. $a > c \geq 0$ より $a^2 > c^2$ なので $a^2 - c^2 > 0$, 更に $y^2 \geq 0$ なの

$$\text{なので, } 1 - \frac{x^2}{a^2} = \frac{y^2}{a^2 - c^2} \geq 0, \quad \frac{x^2}{a^2} \leq 1, \quad x^2 \leq a^2; \quad a > 0 \text{ なの$$

$$-a \leq x \leq a.$$

仮定 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{a^2 - c^2} = 1$ より $y^2 = (a^2 - c^2)\left(1 - \frac{x^2}{a^2}\right)$ なの

$$\overline{F_1P} + \overline{F_2P} = \sqrt{(x-c)^2 + y^2} + \sqrt{(x+c)^2 + y^2}$$

$$= \sqrt{(x-c)^2 + (a^2 - c^2)\left(1 - \frac{x^2}{a^2}\right)} + \sqrt{(x+c)^2 + (a^2 - c^2)\left(1 - \frac{x^2}{a^2}\right)}$$

$$= \sqrt{a^2 - 2cx + \frac{c^2}{a^2}x^2} + \sqrt{a^2 + 2cx + \frac{c^2}{a^2}x^2}$$

$$= \sqrt{\left(a - \frac{c}{a}x\right)^2} + \sqrt{\left(a + \frac{c}{a}x\right)^2}.$$

$x \leq a$ より, $-\frac{c}{a}x \geq -c, a - \frac{c}{a}x \geq a - c > 0, \sqrt{\left(a - \frac{c}{a}x\right)^2} = a - \frac{c}{a}x.$ $x \geq -a$

より, $\frac{c}{a}x \geq -c, a + \frac{c}{a}x \geq a - c > 0. \sqrt{\left(a + \frac{c}{a}x\right)^2} = a + \frac{c}{a}x.$ よって,

$$\sqrt{\left(a - \frac{c}{a}x\right)^2} + \sqrt{\left(a + \frac{c}{a}x\right)^2} = a - \frac{c}{a}x + a + \frac{c}{a}x = 2a.$$

故に $\overline{F_1P} + \overline{F_2P} = 2a$. (証明終り)

定理 5.4.2 を証明します. 定数 a, b について $a \geq b > 0$ のときを扱います. xy 座標平面において方程式 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ が表す図形 E とおきます. $a^2 = b^2 + c^2$ である定数 c を考えます. 次のことを証明します: E は楕円であり, E の中心は原点 $(0, 0)$ であり, E の頂点は $(a, 0)$ と $(-a, 0)$ と $(0, b)$ と $(0, -b)$ とであり, E の焦点は $(c, 0)$ と $(-c, 0)$ とである.

証明 $a^2 = b^2 + c^2$ なの

$$a^2 - c^2 = b^2 + c^2 - c^2 = b^2.$$

補助定理より, 点 $F_1 = (c, 0)$ と $F_2 = (-c, 0)$ と及び, 各実数 x, y に対する点 $P = (x, y)$ について,

$$\overline{F_1P} + \overline{F_2P} = 2a \iff \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{a^2 - c^2} = 1 \iff \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1.$$

図形 E は方程式 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ で表されるので, 座標平面の各点 $P = (x, y)$ について,

$$P \in E \iff (x, y) \in E \iff \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1 \iff \overline{F_1P} + \overline{F_2P} = 2a.$$

E は楕円であり, E の焦点は $F_1 = (c, 0)$ と $F_2 = (-c, 0)$ とである. E の中心は, 焦点 $F_1 = (c, 0)$ と $F_2 = (-c, 0)$ とを結ぶ線分の midpoint であるので, 原点 $(0, 0)$ である. E について, 両方の焦点が x 軸に属するので, 長軸は x 軸に含まれ, 短軸は y 軸に含まれる. E を表す方程式 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ において, $y = 0$ とすると $x = \pm a$, $x = 0$ とすると $y = \pm b$. E の頂点は $(a, 0)$ と $(-a, 0)$ と $(0, b)$ と $(0, -b)$ とである. (証明終り)